



まほろばだより

2015
Spring
vol.12

公立大学法人 奈良県立医科大学 女性研究者支援センター

第12号

Report 1

文部科学省 女性研究者研究活動支援事業の事後評価において総合評価 A を取得しました！

平成 23 年度～ 25 年度の 3 年間、皆様のご理解とご協力をいただき実施してまいりました女性研究者研究活動支援事業について、昨年文部科学省に報告を行い、A 評価をいただきました。評価コメントには「今後は、女性医師の離職防止への取組とともに、上位職階の女性教員の採用を組織の活性化の重要な目標と位置付け、本事業への一層の取組を期待する。」とあり、継続的な取組が期待されています。以下に 3 年間の成果を報告します。

達成目標

事業終了時

医学部女性教員比率を平成 22 年度の 18% から 21% に、医学部全体の女性研究者比率を平成 22 年度の 23% から 26% に引き上げる

達成

▶ 医学部女性教員比率

18.0% → **22.5%** (21.0%)

▶ 医学部女性研究者比率

23.0% → **25.6%** (26.0%)

▶ 医学科女性教員比率

11.2% → **15.3%** (14.0%)

▶ 医学科上位職女性比率

教授 4.7% → **6.8%** (4.7%)准教授・講師 6.9% → **11.6%** (6.9%)

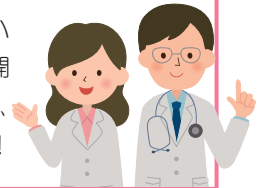
※ () 目標値



女性の人権・ハラスメント防止啓発研修会を実施し、教授全員と、教授以外の教員、附属病院医員、院生の 70% 以上が受講することを目指す

達成

教職員等を対象に年 2 回以上、職場環境改善・ハラスメント防止・男女共同参画に関する研修会を開催。研修会に出席できない方には DVD を貸し出し、教授全員と、教授以外の教員 71.8% が研修を受講！



ライフイベント中の女性教員の希望者全員に研究支援員を配置する

達成

育児および介護を理由に研究支援員配置を希望した女性教員計 8 名に対して、マッチングの上 6 名に支援員を配置。(2 名は職務内容の変更等で辞退) 配置を受けた全教員が研究とライフイベントの両立を果たした。



看護学科若手教員の就職後 2 年以内の離職率ゼロを目指す (他大学への転職を除く)

達成

ハラスメント等により研究が困難になった研究者の研究継続支援のために緊急避難場所を提供し、採用から 2 年以内の早期退職者ゼロに！



大学院の女性比率を平成 22 年度の 30% から 40% 以上に引き上げる

もう少し！

平成 22 年度 30.1% から平成 25 年度 39.1% に上昇



Contents

- ⑧ 文部科学省 女性研究者研究活動支援事業の事後評価において総合評価Aを取得しました!
- ⑨ 研修会「ダイバーシティ(多様性)推進が育む快適職場」を開催しました
- ⑩ 第3回カフェJOYFULLを開催しました
- ⑪ 女性研究者支援センターコーディネーターの岡本講師が平成26年度武見奨励賞を受賞しました
- ⑫ 感染症センターの今北医師が万有生命科学振興国際交流財団「女性研究者支援」研究助成に採択されました
- ⑬ 女子中高生の理系進路選択支援プログラム連絡協議会に参加しました
- ⑭ 日本医師会「女性医師支援事業連絡協議会」でセンターの取組を報告しました
- ⑮ Information
- ⑯ コミュニケーションスキルを学ぼう!
第12回「セクハラ境界線」

Report 2

研修会「ダイバーシティ（多様性）推進が育む快適職場」を開催しました

2月24日、本学附属病院医療安全推進室と共催で医療安全管理研修会を開催しました。講師には積水ハウス株式会社 経営企画部 ダイバーシティ推進室 室長の伊藤みどり氏をお招きし、「ダイバーシティ（多様性）推進が育む快適職場」というタイトルでご講演いただきました。

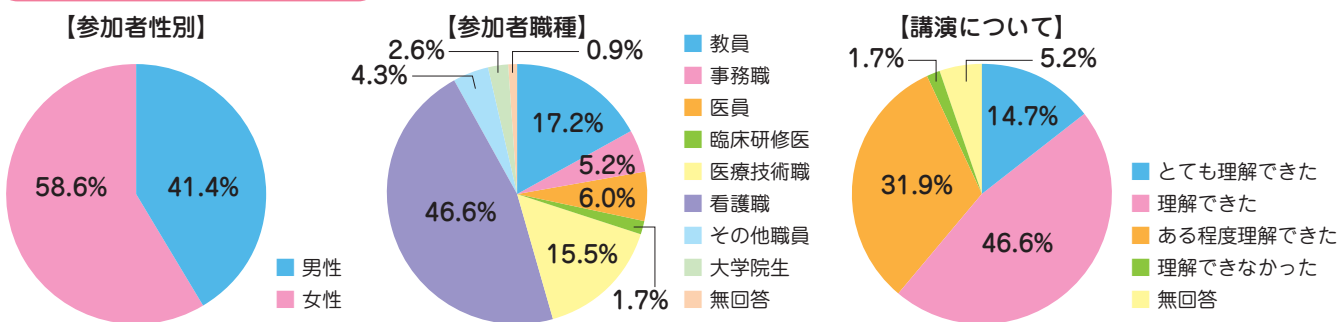
積水ハウスは、男性社会と言われている建設業界の中で、女性管理職の積極登用、採用・職域の拡大に努め、女性が働き続けキャリアアップができるような仕組みづくりをされており、人材の多様性を組織の成長に活かすダイバーシティマネジメントに成功されています。

講演では、あらゆる職種・階層に多様な人材を配置することで、多様なニーズに対応することができ、組織の成長につながることを具体的な事例をまじえてお話いただきました。また、自身の経験や失敗を通じて学んだこともふまえ、働く女性にエールを送られました。

終了後のアンケートでは、「全員が当事者意識を持つという言葉に感動しました。難しいけれど必要なことだと思った。」という意見が男性からあり、女性からは「経験談を聞き、勇気づけられた。」「これからも頑張って仕事をつづけていこうと強く思えた。」という前向きな意見が多くありました。



講演後のアンケート結果



Report 3

第3回カフェ JOYFULL を開催しました

2月7日、奈良県 医療政策部 医師・看護師確保対策室と共催で「第3回カフェ JOYFULL」を開催しました。カフェ JOYFULL は、女性医師どうしの情報交換やネットワーク形成の促進を図るために開催されています。

今回は、奈良県内で働く自治医科大学出身の女性医師と本学の医学科緊急医師確保研修生女子学生が参加し、当センターの須崎先生と水野先生が司会とアドバイザーを務めました。地域医療を担う自治医科大学出身の先生方の経験談を中心に、仕事と子育ての両立や就労継続、キャリア形成などについて和やかな雰囲気の中、情報交換が行われました。

参加した女子学生からは「自治医科大学出身の医師や医学生の間で行われているような交流の場を県費奨学生の先輩後輩の間でも作って欲しい」といった意見をいただきました。



Report 4 女性研究者支援センター コーディネーターの岡本講師が平成26年 度武見奨励賞を受賞しました



当センターコー
ディネーターで地
域健康医学教室
の岡本希講師が
「地域在住高齢者
における認知機能
障害と歯周病との
関連：局所の炎症
の影響について」

という研究テーマで武見奨励賞を受賞しました。武見奨励賞は、故武見太郎が創造した生存科学の普及・発展を図ることを目的に、生存科学とその関連分野で顕著な業績をあげつつある研究者、または実践者に対して贈られるものです。

Report 6 女子中高生の理系進路選 択支援プログラム連絡協議会に参加 しました



1月28日、(独)
科学技術振興機
構(JST)におい
て女子中高生の理
系進路選択支援
プログラム連絡協
議会が開催され
ました。本学では今
年度JSTから採
択を受け、女子中高生の医理系進路選択を促すことを目的に全
5回のイベントを実施し、その取組内容について、当センターコー
ディネーターの水野文子講師が報告しました。

5回のイベントを実施し、その取組内容について、当センターコー
ディネーターの水野文子講師が報告しました。

Report 5 感染症センターの今北医員 が万有生命科学振興国際交流財団「女性 研究者支援」研究助成に採択されました



公益財団法人
万有生命科学振
興国際交流財団
では、異分野連携
により新たな学術
領域を拓く女性
研究者に対して
研究助成を行って
います。このたび、

感染症センターの今北菜津子医員の研究テーマが研究助成に採
択されました。今後、連携研究者である免疫学教室の伊藤利洋
教授ご指導の下、「エピジェネティクスによるインフルエンザウィ
ルス脳症への新たな治療戦略」についての研究をすすめられます。

Report 7 日本医師会「女性医師支 援事業連絡協議会」でセンターの取組を 報告しました

2月27日、日本医師会において「女性医師支援事業連絡協議会」
が開催されました。近畿ブロックの代表報告として当センターマ
ネージャーの須崎康恵講師が発表しました。奈良県医師会と共
催して実施した医学科学生に対するキャリア教育や本学におけ
る女性医師支援の取組を紹介しました。

【日本医師会 女性医師支援センター HP】
<http://www.med.or.jp/joseiishi/index.html>



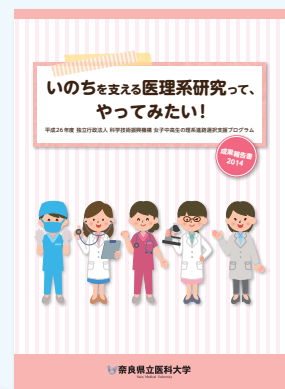
Information 女子中高生の理系進路選択支援プログラム

「いのちを支える医理系研究って、やってみたい!」成果報告書を作成しました

女性研究者支援センターでは、平成26年度(独)科学技術振興機構(JST)「女子
中高生の理系進路選択支援プログラム」の採択を受け、「いのちを支える医理系研
究って、やってみたい!」というタイトルで女子中高生を対象に医理系研究の面白
さを伝え、将来の医理系進路選択を促すためのイベントを5回開催しました。この
たび、本学における取組について報告書を作成しました。

学内関係者だけでなくどなたでもご覧いただけますので、ご希望の方はお気軽
にお問い合わせください。

【問い合わせ先】女性研究者支援センター TEL: 0744-23-8011(直通)
E-mail: jshien@naramed-u.ac.jp



ハラスメントを未然に防ぐためのコミュニケーションスキルについて毎号ご紹介していきます。

第12回 『セクハラ境界線』

先日、“言葉のセクハラ”をめぐる裁判で、男性管理職への懲戒処分は妥当だったとする判決が下されました。言葉によるセクハラは体に触れるなどのセクハラと比べると軽く見られがちですが、受ける側が不快に感じていることには違いありません。もう一度セクハラについての理解を深め、防止に努めましょう。

セクハラとは…

セクシュアル・ハラスメントとは、受け手が嫌だと感じる性的な誘いかけ、行為、環境をつくることをいいます。異性間だけではなく同性間での言動もセクハラとなり、教職員と学生の間、同級生同士、先輩・後輩の間においても問題となります。

セクハラになり得る言動…

- 性的な噂を流したり、性的なからかいの対象とする
- 性的な経験について質問する
- 食事やデートにしつこく誘う
- 性的な関係を強要する
- 不必要に自宅までの送迎を強要する
- セクハラ抗議に対し不当な扱いをする



自分では「これは大丈夫」と思っている、その行為を受けた本人が不快に感じていればそれはセクハラになりかねません。また、被害の場所は学内だけでなく、飲み会の席や部活動といった学外も含まれます。

もしセクハラを受けてしまったら…

嫌なことははっきりと拒絶しましょう。セクハラしている相手は、こちらが不快と思っていることに気付いていない場合があります。曖昧な態度で許してしまうと「何も言わないからやってもいいんだ」といった誤解が生まれ、加害者が同じような行為をほかの人にも行ってしまいうこともあります。相手に直接伝えるには自分を責めないで信頼できる人に相談しましょう。決して一人で抱え込まないでください。



女性研究者支援センターでは、来年度にキャンパスセクシュアルハラスメントの防止と対応に関する講演会を予定しています。今後も、ハラスメントゼロをめざして活動を継続します。

【編集後記】

文部科学省「女性研究者研究活動支援事業」の事後評価でA評価をいただくことができました。3年間の活動に高い評価をいただけたことを嬉しく思います。センターでは来年度以降も男女共同参画と女性医師・研究者のエンパワメントを目指した様々な取組を行っていききたいと思います。

【編集・発行】

奈良県立医科大学 女性研究者支援センター「まほろば」
〒634-8521 奈良県橿原市四条町840
奈良県立医科大学 基礎医学棟5階
TEL：0744-23-8011(直通)0744-22-3051(代)内線：2525
E-mail：jshien@naramed-u.ac.jp

